



福島市
FUKUSHIMA CITY

令和4年度

一般会計
6月追加補正予算(第5号) 補正内容

1. 緊急経済対策（原油価格・物価高騰等総合緊急対策）関連
2. 新型コロナ対策（コロナ後を見据えた変革）追加
3. 降ひょう被害を受けた果樹生産者への支援

補正予算額(一般会計)

10億7,724万円

(単位:千円)

事業費 合計	財源内訳			
	国	県	その他	一般財源
1,077,241	1,125	—	△15,514	1,091,630

【参考】令和4年度予算累計額(一般会計)

1,214億5,576万円

NO.

1

緊急経済対策

(原油価格・物価高騰等総合緊急対策) 関連

7億6,724万円

(単位:千円)

事業費合計	財源内訳			
	国	県	その他	一般財源
767,241	1,125	—	△15,514	781,630

※一般財源781,630千円は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金

物価高騰等に直面する生活困窮者等への支援

“第4弾” 市民生活エールクーポン

補正額：652,500千円

コロナ禍に加えて原油価格や物価の高騰の影響を受けた市民生活の支援と、疲弊した地域経済の下支えを図るため、市独自の需要喚起策として、『ふくしま市民生活エールクーポン』を発行します。

- ・ 対象：令和4年6月1日現在、福島市に住民登録のある全ての市民（約272,000人）
- ・ 期間：令和4年9月～令和4年12月まで（利用期限）

**1セット4,500円分の
エールクーポンを
3,000円で購入可能**

(スケジュール)

区分	支援内容
全ての市民 (世帯主へ送付)	クーポン 1人1セット プレミアム額1,500円
うち、非課税世帯 (世帯全員が 市県民税非課税の世帯)	クーポン 1人2セット プレミアム額3,000円 (+1セット追加)

	令和4年9月	10月・11月	12月
全ての方 (世帯主へ送付)	引換券 送付 1セット	市内約1,700店舗（予定） で利用可能	
市県民税 非課税世帯の方 (世帯主へ送付)			
		★ (9月下旬) 1セット追加送付	

物価高騰等に直面する生活困窮者等への支援

福島型給食推進事業の拡充

補正額：128,755千円

食材価格が高騰する現状においても、栄養バランスが取れたおいしい福島型給食の質と量を継続的に確保するとともに、補助率を1/3に拡大し、保護者の負担をさらに軽減します。

(1) 給食の質と量を確保



福島型給食基準額	現在の金額	7月以降	増加額
小学校 1食あたり	280円	300円	+20円
中学校 1食あたり	330円	350円	+20円
保育所など1月あたり	4,500円	5,000円	+500円

※私立施設については、増加額分を施設に補助します。

(2) 保護者負担のさらなる軽減

保護者負担額	現在の金額	7月以降	軽減額
小学校 1食あたり	210円	200円	△10円
中学校 1食あたり	260円	250円	△10円
保育所など1月あたり	3,500円	3,300円	△200円

※単独給食実施校の保護者負担額については、学校ごとに異なります。 ※私立施設については軽減額分を施設に補助します。

これまでの1/4補助から

1/3へ拡大

小中学校1食あたりの支援額 70円 ⇒ 100円
保育所等1月あたりの支援額 1,000円 ⇒ 1,700円

物価高騰等に直面する生活困窮者等への支援

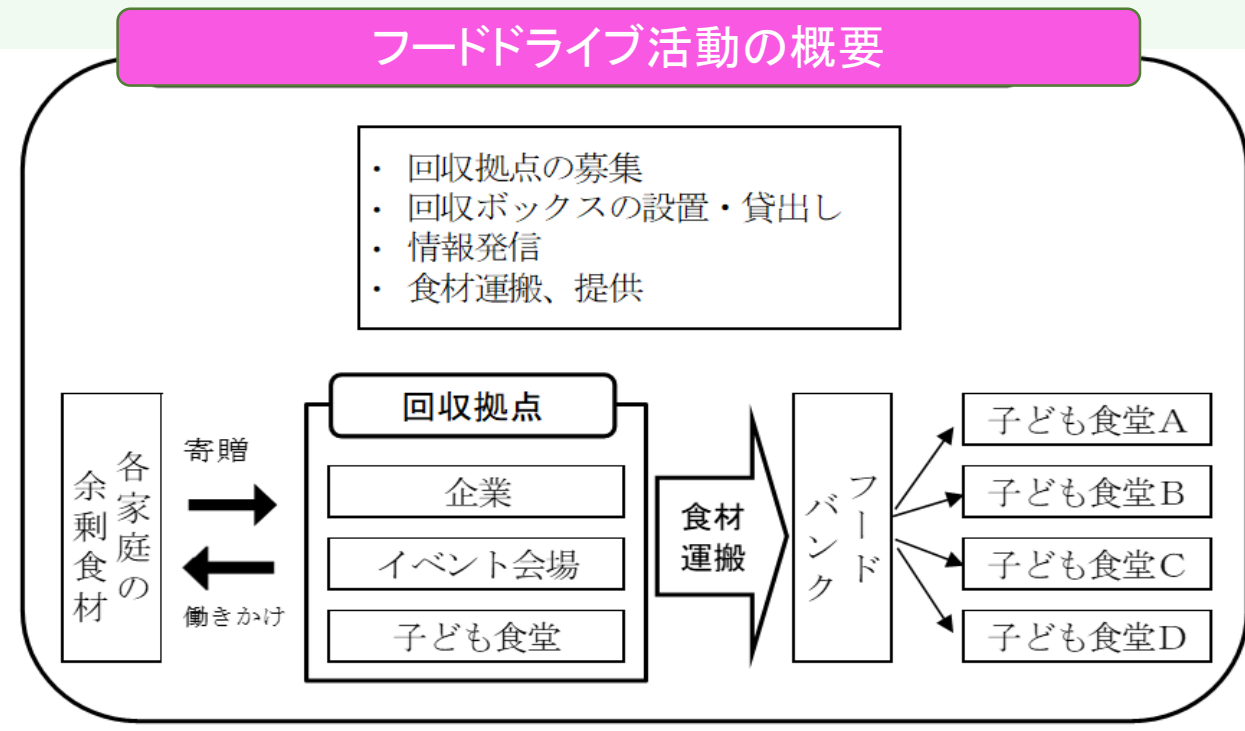
子ども食堂運営支援 ～「MOTTAINAI」を「ありがとう」へ～

補正額：1,500千円

食費等の物価高騰に直面して困窮する子育て世帯の支援につなげるため、子ども食堂などが安定した運営ができるように、地域や企業等におけるフードドライブ活動を促進し、新たな連携・支援体制を構築します。

また、家庭で使い切れない食品ロスの削減と、ごみの減量化につなげます。

フードドライブ活動の概要



(1) 実施場所

- ①企業や団体
- ②各種イベントや公共施設(保健福祉センター)、商業施設等
- ③子ども食堂開催前や子ども食堂の活動内容の周知イベント

(2) 提供いただける食品等

賞味期限の記載のあるもので、未開封で期限までに1か月以上あるもの

※想定している食材 米、インスタント食品、レトルト食品、缶詰、乾麺、お菓子など
(生鮮食品、冷凍食品等は対象外)

NO.

2

新型コロナウイルス感染症対策
(コロナ後を見据えた変革) 追加

2億9,000万円

(単位:千円)

事業費合計	財源内訳			
	国	県	その他	一般財源
290,000	—	—	—	290,000

※一般財源290,000千円は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金

コロナ後を見据えた変革

周遊スポット魅力アップ支援

補正額：200,000千円

長引くコロナ禍で疲弊した地域経済、特に観光関連産業の活性化を図るため、市内周遊スポットの魅力やおもてなしの向上の取り組みなど、新たなニーズに対応しながら魅力アップに取り組む観光事業者等を支援し、道の駅ふくしまへの来訪客をはじめとした観光客の市内周遊を促します。

【事業内容】

(1) 対象者

道の駅ふくしまの周遊手形に登録した市内の周遊スポット・店舗、観光果樹園、旅館・ホテル など

(2) 補助内容

観光客が訪れたいくなる新たな魅力づくりのための施設改修（ハード）や、来訪者の高い満足度につながる事業（ソフト）など、先駆的な取り組みを行う事業者に対して補助金を交付

(3) 補助額：下図のとおり

		宿泊施設および 公共的民有施設等の改修	連携型 (※3事業者以上)	個別事業者施設整備	魅力・満足度アップへの取組		体験プログラム開発	
ハード型	対象	宿泊施設や一般開放を行っている民有施設等の整備など	事業者同士の連携による整備	個別事業者の施設整備	ソフト型	対象	新商品・パッケージ開発、先駆的なメニュー・サービスの開発・導入	体験型・着地型プログラムの開発
	事業例	・魅力アップのための植栽ボリュームアップ ・花スポットが一望できる展望所の整備	・フルーツライン沿線観光果樹園の景観に配慮した統一的な改修・修景	・ワイナリー、農園カフェなどのテラス席の新設 ・納屋をゲストハウスに改修		事業例	・健康志向に対応した減量メニュー ・スイーツプレミアム提供 ・多言語アプリ・ポケットーク導入など	・道の駅ふくしま起点の周遊ツアー造成 ・五感で味わうツアーの造成・販売など
	補助	○補助率：3分の2 ○上限額：500万円	○補助率：3分の2 ○上限額：200万円 <small>(1事業者につき)</small>	○補助率：2分の1 ○上限額：200万円		補助	○補助率：3分の2 ○上限額：200万円	

コロナ後を見据えた変革

周遊スポット魅力アップ支援事業 想定対象事例

ハード型の例

①旅館・店舗の中・小規模改修

- ・ワイナリー、農園カフェなどのテラス席の新設
- ・感染対策を整えた、観光客が立ち寄り可能な多目的トイレの整備・改修

②建物デザイン改修

- ・観光果樹園などでの花のゲート・モニュメントの設置
- ・納屋をゲストハウスとしても使える仕様に改修し、果樹園で星空を鑑賞
- ・インスタフレーム、インスタフォトスポットの新設

③近接する観光資源の雰囲気に合わせて仕様の改修

- ・景観を配慮した店舗ファサードの装飾や看板改修

④花回廊スポット受入環境整備

- ・魅力アップのための植栽ボリュームアップ
- ・スポットの目印となる案内誘導看板、花のピーク時の情景が分かる看板の設置

⑤ユニバーサルデザイン化

- ・エントランスの舗装（車いすが通れるように）、段差解消、スロープの設置
- ・ピクトグラムの設置

⑥古民家再生にかかる小規模修繕

- ・古民家リノベーションによるワーケーションスペースへの改修
- ・養蚕家屋を改修した交流施設整備

など

ソフト型の例

①新商品・パッケージ開発、先駆的なメニュー・サービスの開発

- ・出張土産品の開発、ふくしまA級産品詰め合わせセットのパッケージ商品化
- ・花回廊ブランドのノベルティ開発
- ・健康志向に対応した減量メニュー、スイーツプレミアム商品のデザート提供
- ・旅館・観光施設等の多言語アプリ・ポケットーク導入

②体験型・着地型旅行商品開発

- ・道の駅ふくしま起点のサイクリングツアーのプログラム造成・販売
- ・東北の四季を感じられるツアーの造成・販売
(浄楽園×かまくら、浄土平や堤ヶ平×天然プラネタリウム)
- ・五感で味わうツアーの造成・販売（防霜対策の焚火の景観を楽しむ旅など）
- ・乗馬体験プログラム開発
- ・裏スポットの開発（裏飯坂、裏信夫山、裏花回廊、裏フルーツラインなど）

など

コロナ後を見据えた変革

施設園芸エネルギー転換支援

補正額：50,000千円

収量・品質を確保できる生産体制づくりと、地球温暖化防止へ貢献する農業者を支援するため、従来の燃油消費型から燃油を使用しない暖房設備の設置に対し補助します。

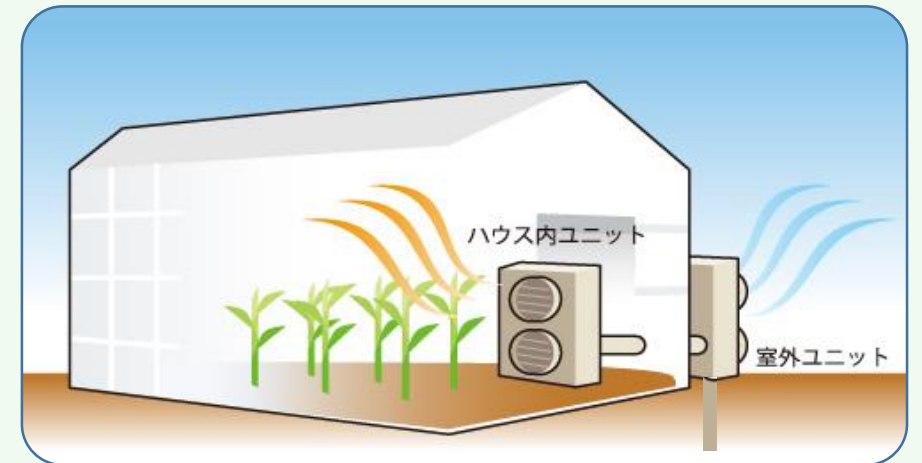
【事業内容】

- (1) 対象者：市内に住民登録のある方
- (2) 補助内容：園芸施設への燃油を使用しない暖房設備設置費用
(地中熱ヒートポンプやバイオマスボイラーなど)
- (3) 支援額：1/3 (上限なし)

【支援要件】 ①～③のいずれかの場合

- ①既設の燃油使用型暖房設備（ボイラー）からの置き換え
- ②園芸施設（ハウス）新設に伴い設置する、燃油を使用しない暖房設備
- ③既存のボイラーの使用頻度を低減させるために設置する燃油を使用しない暖房設備

(地中熱ヒートポンプ設備のイメージ)



(出所：一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターHPより)

コロナ後を見据えた変革

街なか再生リノベーション

補正額：20,000千円

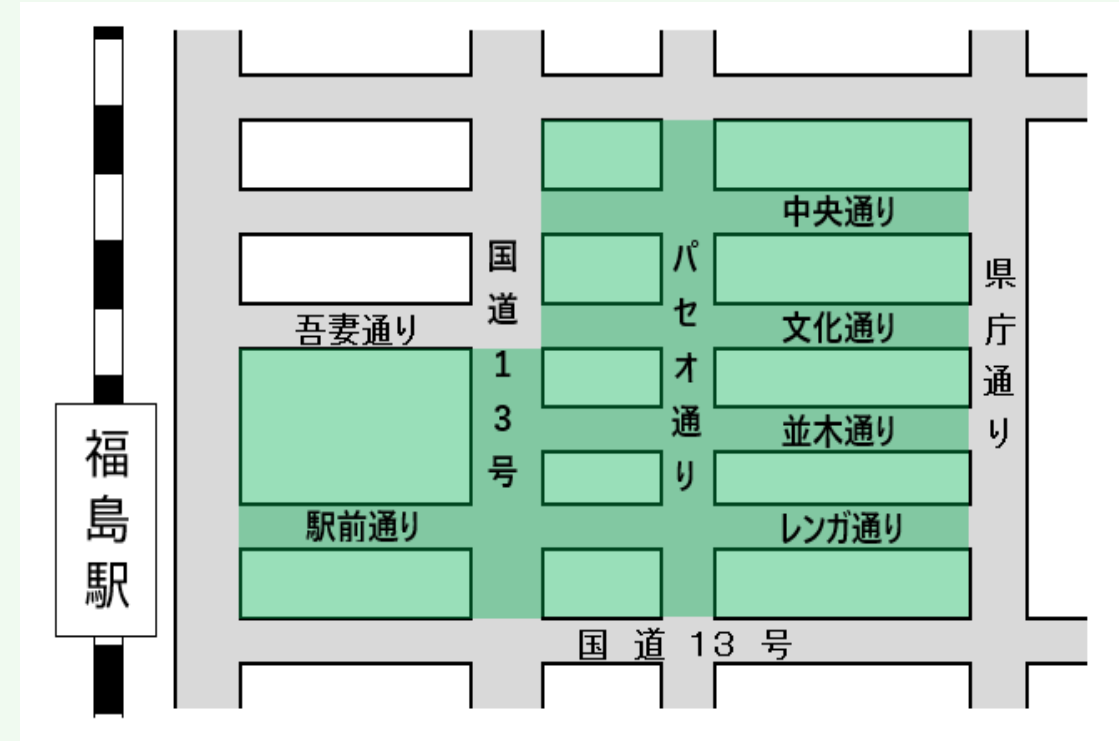
長引くコロナ禍で空き店舗が増大した中心市街地の再生を図り、にぎわいを取り戻すため、空き店舗をリノベーションして開業する事業者を支援します。併せて、街なかに創業者の出店を促し、クリエイターなど都市型産業の交流人口拡大を期す、「創業ゾーン」の形成を目指します。

【補助対象経費】

外装・内装にかかる工事費
給排水・空調・ガス工事費
サイン・電気・照明工事費
ネットワーク環境接続費の初期投資費用 など

【補助対象地区および創業ゾーンイメージ】

対象事業者	補助上限額	補助下限額	補助率
①各種産業	200万円	10万円	1/2以内
②クリエイティブ産業			2/3以内



コロナ後を見据えた変革

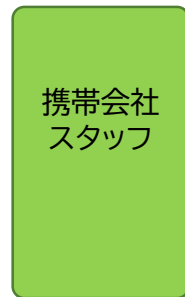
高齢者デジタル活用サポート

補正額：20,000千円

デジタル機器に不慣れな高齢者等をサポートするため、高齢者等にスマートフォンの利活用を支援する講座(世代間デジタル交流講座)を市内全域で実施します。

(1) 市内に店舗のある携帯キャリアのスタッフが講師、大学生やシニアICTサポーターがサポーターとなって、デジタル活用に不慣れな高齢者等に対し、講座を実施。

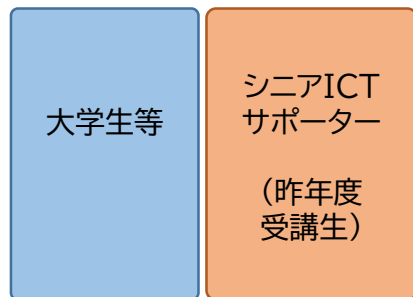
《講師》



1人

※受講生2人に対して、
サポーター1人が支援

《サポーター》



5人

シニアICT
サポーター
(昨年度
受講生)

《1講座あたりの開催時間等》

時間:90分(13:30~15:00) 定員:10名

《講座》R4.9月下旬~R5.2月下旬まで計140回 延べ1,400人程度受講

①入門体験講座 80回(16ヶ所×5回 月1回のペース)

スマートフォンの電源のON・OFFや画面操作、文字入力など、基本操作等を学ぶ講座を16学習センターで実施。

②シニアICTサポーター育成講座 15回(7ヶ所×2回 1回予備)

インターネットの使い方やLINEの友だち登録の仕方、設定等を学ぶ講座を「ふくふる」のほか、清水・北信・飯坂・松川・信夫・吾妻の学習センターで実施。

③電子町内会(31町内会)支援講座 45回

(新規に参加する14町内会×2回、継続して参加する17町内会×1回)

スマートフォンを使ったメールアドレスの登録やメールの作成、送受信を学ぶ講座を電子町内会を実施する最寄りの学習センターで実施。

(2) 講座受講後に受講生のスマートフォン活用事例発表会を開催(R5.3月中旬)

NO.

3

降ひょう被害を受けた果樹生産者への支援
(第1弾)2,000万円

(単位:千円)

事業費合計	財源内訳			
	国	県	その他	一般財源
20,000	—	—	—	20,000

降ひょう被害を受けた果樹生産者への支援（第1弾）

ひょう害果販売促進

補正額：20,000千円

6月3日の降ひょうにより、フルーツライン沿線地区を中心に総額約6億円の被害が生じたことを受け、降ひょう被害生産者への支援を全国に呼びかけるポータルサイトを開設・運営し、ひょう害果の販売情報集約と送料を支援します。

【事業内容】

新規ポータルサイトの開設・運営・コンテンツ作成
SNS広告など ※7月に開設予定

(参考:被害状況(6/9時点))

	栽培面積	被害面積	被害見込額
なし	413.7ha	190ha	2.3億円以上
もも	612.5ha	108ha	1.9億円以上
りんご	486.5ha	158ha	1.5億円以上
ぶどう	51.5ha	4ha	約800万円
おうとう	36.6ha	5ha	約500万円
すもも	3.2ha	2ha	約200万円
合計	1,600ha以上	467ha以上	6億円以上



降ひょうによる傷が目立つ実かもしれませんが、ふくしまの果物のおいしさは変わりません。

全国の皆様のご購入のエールが、くだもの王国ふくしまの生産者がこれからも栽培を継続し、美味しい果実を届け続ける力となります。

是非とも、ご支援をよろしくお願いいたします。